

イベントとはなにか： 分節・記述・概念からみえてくるもの What Constitutes an Event? : Perspectives from Segmentation, Description, and Concept Formation

オーガナイザー：佐藤 由紀¹，青山 慶²
Yuki Sato, Kei Aoyama

¹玉川大学，²岩手大学
Tamagawa University, Iwate University

登壇者：青山 慶²，阿部廣二³，高梨 克也⁴
Kei Aoyama, Koji Abe, Katsuya Takanashi

²岩手大学，⁴青山学院大学，³滋賀県立大学
Iwate University, Aoyama Gakuin University, The University of Shiga Prefecture

指定討論：藤波 努⁵，染谷昌義⁶

⁵北陸先端科学技術大学院大学 ⁶北海道大学
Japan Advanced Institute of Science and Technology, Hokkaido University

1. 企画趣旨

私たちは日々の世界を連続的な変化として経験しながら、それを「イベント（できごと）」として切り分け、理解し、語り、記憶し、他者と共有している。しかし、何を「イベント」とみなすのかは自明ではない。イベントの境界はいかに定まるのか、それは知覚・行為・言語・社会制度のいずれの水準で成立するのか、また、その単位は誰にとって、どのような実践のなかで存在するのかといった問いは、認知科学において十分に共有されたものとはいえない。また、認知科学では「イベント」は頻繁に用いられる概念である一方、その定義や前提は研究領域ごとに異なり、しばしば暗黙のまま用いられている。

そこで本 OS では、この概念的多様性を積極的に取り上げ、「イベントとは何か」という根本的な問いを再検討する。

具体的には、保育施設における幼児の発達観察、相互行為場面における活動の推測、生の世界と文化の世界を架橋するものとしての「イベント」に関する理論的検討を起点とし、身体知研究や生態心理学の観点から指定討論をおこなう。これにより、イベントを単なる心内表象や分析上の便宜としてではなく、環境と身体との相互作用のなかで成立する過程として捉え直すことで、既存の研究に回収されない多層的な論点を提示し、認知科学の多様な研究領域を横断す

る対話の場となることを目指す。

2. 登壇者の発表内容（五十音順）

2.1 「イベントと気づきの入れ子」青山慶

「私たちがひとつのまとまったエピソードとみなすものは、選択の問題であり、測定の単位によってではなく、適切な始まりと終わりに依存する」（Gibson, 1979/2014）。例えば、保育施設の散歩への切り替え場面では、「散歩」という大きなイベントのなかに複数のイベントが絡み合い、入れ子をなしている。本話題提供では、保育施設の散歩場面を、イベントの再帰性・可逆性・入れ子化を手掛かりに、気づきと制御の入れ子化としてイベントを捉え直すことを試みる。

2.2 「できごと」と還元：方法論的還元主義について（阿部廣二）

認知科学の質的研究における「できごと」概念では、特定の要因に還元せず、現象の全体を捉えていこうとする志向の重要性が主張される。しかし、こうした主張を行う際、先行研究が明らかにしてきた、様々な現象説明のための要因は否定されるべきなのだろうか。本報告では、筆者が行ってきた昆虫採集活動のフィールドデータ、および「できごと」概念の源流の一つである初期バフチンの想像力を手がかりに、できごとの全体性を希求しつつ、科学として要素還元的に思考する「方法論的還元主義」という立場の提案を

1 試みる。

2 2.3 「フィールドインタラクション分析の手 3 法としての「活動」の推測」高梨克也

4 相互行為分析をフィールドワークのための手法と
5 して用いようとする際に鍵となるのが「活動」という
6 概念である。フィールドワークの特に初期、観察者は
7 参与者たちによる動作や行為の流れに圧倒される。
8 その中の何が重要で、見るべき点なのかが掴めない
9 からである。その時、彼らが行おうとしている「活動」
10 に作業仮説的に名称を与えようすると、それらの
11 間の整合性が徐々に見えはじめ、着眼点も絞られて
12 くるようになる。本話題提供では、このプロセスの原
13 理について、具体的な事例を交えて紹介し、議論した
14 い。

15

16 謝 辞

17 本研究はJSPS 科研費 JP23K02306 の助成を受けた
18 ものです。

19 文 献

20 Gibson, J. James. (1979/2014). *The Ecological Approach to*
21 *Visual Perception*. Psychology Press. (ギブソン. 古崎
22 敬・古崎 愛子・辻 敬一郎・村瀬 旻 (訳) (1985). 生
23 態学的視覚論：ヒトの近く世界を探る (サイエンス社)
24

